

参加
無料

京都外国語大学国際貢献学部グローバル観光学科 オンラインセミナー

世界が変わる：観光とSDGsを活かす

ー高校・大学における観光教育の可能性：創造力の育成に向けてー

COVID-19のパンデミックにより、私たちの生活は、突然、大きな変化を遂げました。自粛生活のストレスを解消するための模索、オンライン学習やテレワークの取組みなど、教育の現場も仕事も、ベースラインが大きく変化しました。しかし今だからこそ、人間の適応力、社会の回復力、コミュニティ運営の方法などを深く学ぶ事ができるとも言えます。今後の社会では、主体的な問題発見・解決力や創造力が、ますます必要となります。京都外国語大学国際貢献学部グローバル観光学科では、学生達にこれらの力を身に付けてもらうために、「観光の力を通したSDGsへの貢献」を理念とし、教育活動を進めております。このたび、高校の先生方を対象に、オンライン連続セミナーを開催致します。是非、ご参加いただければ幸いです。

対象：高等学校教員

●スケジュール

日 程	内 容
第1回 7月31日(土)	高校における観光教育と、大学における観光学との結びつき
第2回 8月7日(土)	社会と繋がる学びは、なぜ観光学の学びに必要なのか
第3回 8月21日(土)	本物を知る学び ー京都人の視点から、京都における校外学習・修学旅行を考える
第4回 8月28日(土)	コロナ後の世界を生き抜く力 ーデジタルスキルと異文化コミュニケーション力の育成

【時間】 14:00~15:30 (各回)



マレーシアでのヒアリング調査



福井県越前町でのコミュニティエンゲージメント

●ご参加方法●

下記QRコードから、7月25日(日)までに、お申込み下さい。
各回の開催日が近づきましたら、ご登録いただいた連絡先メールアドレスに、
Zoom meetingのURLをお送り致します。



●お問合せ先●

京都外国語大学国際貢献学部グローバル観光学科
E-mail: dgt@kufs.ac.jp



グアムでのホテル就業研修



京都での歴史資料調査



京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies

第1回 7月31日(土) 14:00~15:30

高校における観光教育と、大学における観光学との結びつき

2022年度から高等学校において、新しい指導要領に基づく教育がスタートします。商業科に「観光ビジネス」が登場し、普通科でも地理の中に「観光」の単元ができます。これまでの「総合的な学習の時間」は「総合的な探究」へと替わり、自分の将来を考えながら、解決すべき問題に取り組む主体性の育成が求められます。「人生は旅」と言われますが、実際の旅を通じて他所の生活を見聞し人生を考える「観光」の学びは、新指導要領の主旨に沿った典型的な教育対象と言えます。高校までの学びを総合し、自分の旅行経験とこれからの人生を関係付けるような「観光」へ、生徒をどのように導いたら良いでしょうか。或いは、「観光」をする人々を支援する営み、例えば観光産業に従事することを希望する生徒にどのように大学で観光を学ぶよう、伝えたら良いのでしょうか。第1回目は、高校での観光教育のこれからの在り方と、大学での観光学の学びと繋がりについてご説明します。

●タイムテーブル

14:00~14:10	挨拶	ジェフ・バーグラント（京都外国語大学国際貢献学部グローバル観光学科教授・学科長）
14:10~14:40	基調講演「先生! あなたの旅行、大丈夫ですか? —社会を知り始めた生徒に伝える観光学の学び—」	村上 和夫（立教大学名誉教授）
14:40~15:00	「京都外国語大学国際貢献学部グローバル観光学科における観光教育の取組み」	原 一樹（京都外国語大学国際貢献学部グローバル観光学科教授・副学科長）
15:00~15:30	参加者の皆様との質疑応答・意見交換	



ジェフ・バーグラント
京都外国語大学国際貢献学部
グローバル観光学科教授・学科長



村上 和夫
立教大学名誉教授



原 一樹
京都外国語大学国際貢献学部
グローバル観光学科教授・副学科長

第2回 8月7日(土) 14:00~15:30

社会と繋がる学びは、なぜ観光学の学びに必要なのか

大学は、急激な社会変化と高校生活におけるストレスにさらされつつ大学に入学してくる学生に、緊張を解きほぐしながらも、社会の中で自分なら解決できる課題と向き合い、その世界について語る言葉を見つけ、行動できる考え方を創り上げる力量を高めるための学びを提供する必要があります。それにより、彼らの中に安心と、自分自身のキャリアへ向かう着実な学びが生まれて来るのです。本や講義から学ぶ大前提は、この「自分の言葉。と」行動に結びつく思考、を身に付けていることです。グローバル観光学科では、「コミュニティエンゲージメント」と称する「社会と繋がる学び」を国内外のフィールドで実践しています。第2回目はその仕組みと様々な事例をご紹介します、手法をお伝えします。これは、高等学校における校外学習や社会連携教育においても、お役に立つ教育方法のはずです。

●タイムテーブル

14:00~14:30	「経験知と学問知の融合 —国内外の社会参加型実践学習—」	野崎 俊一（京都外国語大学国際貢献学部グローバル観光学科教授）
14:30~15:00	「一粒のお米から世界が見える ～越前フィールドミュージアム活動における学生の役割～」	南 博史（京都外国語大学国際貢献学部グローバル観光学科教授）
15:00~15:30	参加者の皆様との質疑応答・意見交換	



野崎 俊一
京都外国語大学国際貢献学部
グローバル観光学科教授



南 博史
京都外国語大学国際貢献学部
グローバル観光学科教授

第3回 8月21日(土) 14:00~15:30

本物を知る学び —京都人の視点から、京都における校外学習・修学旅行を考える

「総合的な学習の時間」は、社会における先人の成果を“見て、体験すること”を一つの目標としていました。そのため、修学旅行や校外学習の多くでは、“見学”や“体験”が、“旧来の観光旅行”を軸に作り上げられて来ました。その結果、修学旅行を担当する先生達が、旅行会社が持ち込む企画を自分の旅行経験と費用をもとに評価し判断する傾向もありました。修学旅行のメッカである“京都を学ぶ”価値は、その歴史的文化的価値にもありますが、より大切なことは、それらが今日の生活を支え、SDGsをはじめとするユニバーサルなリーダーシップを世界に発信していることなのです。「本物」とは、時代を超えて今も社会を革新する力を発揮する遺産であり、仕組みであり、作法なのです。第3回目は京都で学ぶための街の“見方”、すなわち探究の方法をご説明します。具体的には、京都の伝統文化体験を提案する京都旅企画代表・滑田教夫氏を中心に、職人さんをお交えてのトークセッションを通して、現代でも生活に息づいている京都の伝統産業を考えてみたいと思います。それは、「本物」の使い手である京都人の視点からの話です。

●タイムテーブル

14:00~15:00	「伝統と共生する町・京都」(対談形式)	村山 弘太郎（京都外国語大学国際貢献学部グローバル観光学科准教授） 滑田 教夫（有限会社 京都旅企画 社長） 宮本 武史（京ふさとひも 宮本株式会社）
15:00~15:30	参加者の皆様との質疑応答・意見交換	



村山 弘太郎
京都外国語大学国際貢献学部
グローバル観光学科准教授



滑田 教夫
有限会社 京都旅企画 社長



宮本 武史
京ふさとひも 宮本株式会社

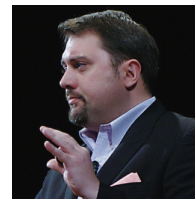
第4回 8月28日(土) 14:00~15:30

コロナ後の世界を生き抜く力 —デジタルスキルと異文化コミュニケーション力の育成

今回のCOVID-19のパンデミックにより、若い世代が将来必要とするスキルとは、デジタル化した社会基盤の上で、健康を維持しながら、グローバルなネットワークを発展させ、学び・生産・生活を革新するためのスキルでなければならないということがわかりました。第4回目は、今後の世界を生き抜く上で必須となる、デジタルスキルと異文化コミュニケーション力の育成についてご説明します。グローバル観光学科では、ARやVRを活用した新たな観光を学生達が創造する学びなど、多角的にデジタルスキルの学修を展開しています。また、異文化コミュニケーション力と言うと、高等学校や受験指導では外国語、特に英語の運用力に着目されがちですが、デジタル化を踏まえ、視座を立て直してみませんか。

●タイムテーブル

14:00~14:30	「Student Projects in Immersive Technology」	エリック・ハーキンソン（京都外国語大学国際貢献学部グローバル観光学科准教授）
14:30~15:00	「Pax Mundi Per Linguasとは何か? —異文化コミュニケーションと17のSDGs」	ジェフ・バーグラント（京都外国語大学国際貢献学部グローバル観光学科教授・学科長）
15:00~15:30	参加者の皆様との質疑応答・意見交換	



エリック・ハーキンソン
京都外国語大学国際貢献学部
グローバル観光学科准教授



ジェフ・バーグラント
京都外国語大学国際貢献学部
グローバル観光学科教授・学科長